

創刊のことば

茲許「駒澤史學」の誕生は私共にとつては、誠にうれしいことです。本大學に地歴科高等師範部が設けられてから二十一年、幾多の人材を社會におくり、それぞれの立場で貢献して來てゐることも亦私共のうれしく思つてゐることです。前にもさうであつたのですが、新制下になつてもなほ頻繁に學生達が寄つて研究發表を聞き合ひ、討論し合つてをります。先生方も請はれるままに代り代り研究發表や研究法指導をされたりしてゐます。ところが此程學生の間から非常に熱心な要望で、それ等の集りでの意見の發表や様子を記録して先輩のお方にも後に續く人人にも見て頂いた上で、色色と御批判をも願ひ、それによつてお互に切磋琢磨して斯學向上に資したいとの趣旨で、兼ねて同窓間の連絡、親密の手蔓としたいとの考から、機關雜誌を有ち度いといふので孤々の聲をここにあげましたのです。

私共が有史以來未曾有の敗戦といふ嚴肅な一段階を通り抜けましたので、その後の歴史觀は區區まぢまぢで、ただ妄りに古きを破壊したり否定したりすることが新説であるかのやうな風が見えますが、これは占領治下にあつたときの利巧者オボチユニストのやることでせうから、私共はどこまでも正は正、邪は邪、眞は眞、偽は偽と正確な眞實な研究結果に到達して、何者にもとらはれない、おもねらない史學を確立して行き度い念願です。

本誌は本大學の關係者に廣く御寄稿を歓迎いたします。そして折角生るべくして生れたのですから、皆様方の庇護のもとにのびのびと育成し可愛がつて立派に成長させてやつて下さることを冀つてやみません。

昭和廿七年十二月

本學教授 岩井大慧